

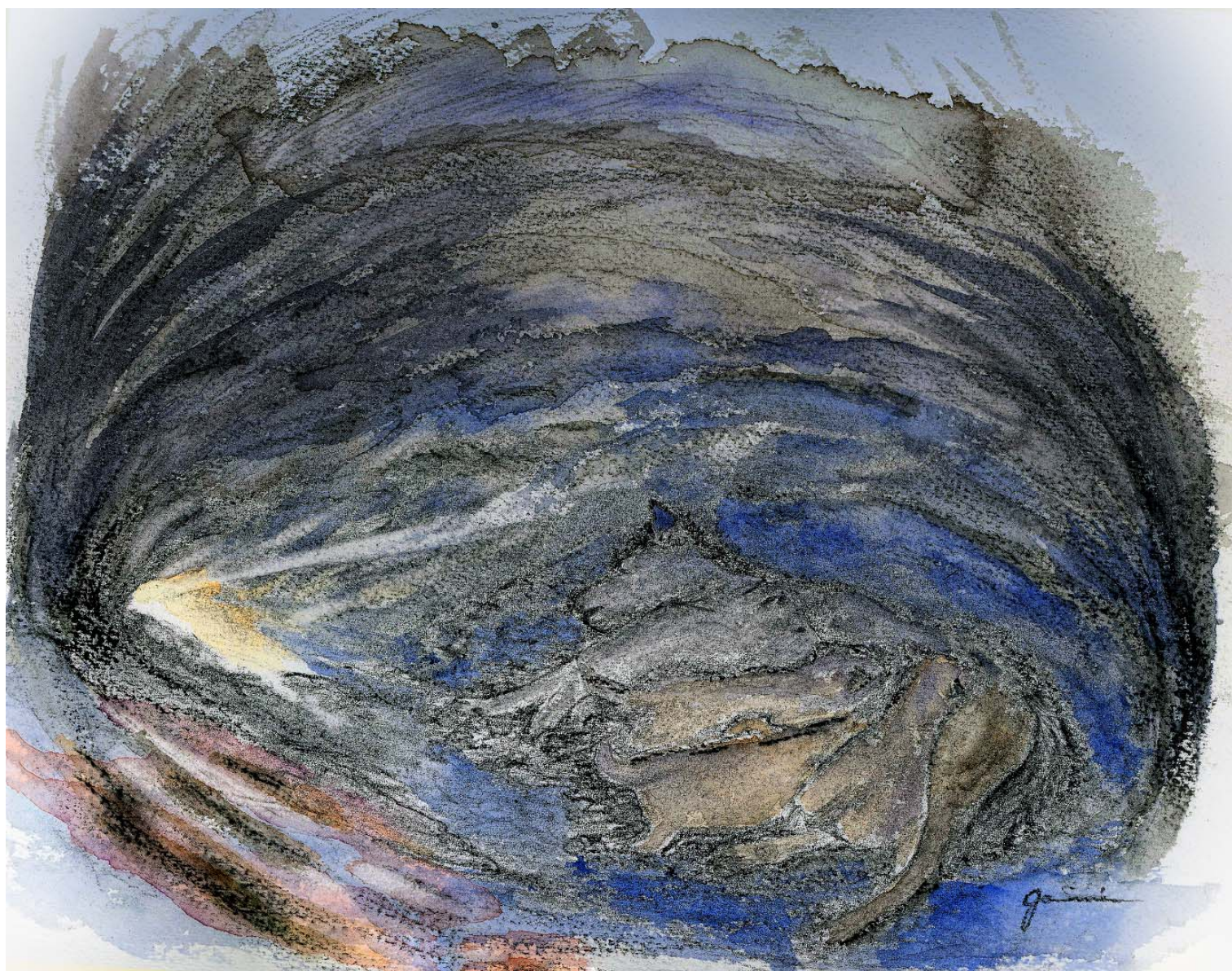
NPO 法人



2016年12月10日

第32号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

縄文柴犬研究と JSRC (歴史的な視点からの試み) 3	五味靖嘉	3
シバの散歩道(31)	根深 誠	8
おたよりコーナー	☆秋田県 藤原庸子、神奈川県 高橋守一	12
	☆秋田県 金沢 聡、福島県 一ノ澤義雄	13
	☆クマの出没情報・訪問記：秋田県 五味靖嘉	15
	☆不思議なこと：石川県 黒梅 明	16
	☆山でクマに出会ったら (ML 交信から)	18
	秋田県・藤原 秋田県・金沢 石川県・黒梅 秋田県・五味 北海道・橘 和歌山県・土山	
	☆お帰り！太郎：和歌山県 土山仁美	20
	☆川縁の公園で 日曜の午後のひととき：岩手県 佐々木俊幸 竜太と暮らして (その2)：北海道 橘 宏	22
	☆リュウが変わったのは？：群馬県 栗原明美	23
事務所報告		
	☆新入会 ☆会費 ☆仔犬登録 ☆寄贈	26

会誌の表紙写真を募集します

JSRCの会誌は年4回発行していますが、表紙写真は毎年度改定しています。表紙は縄文柴犬をアピールする重要な手段で、これまで縄文柴犬の特性を示す様々な角度からの写真を載せてきました。来年度の会誌表紙写真を募集しますので、日常の縄文柴犬との暮らしの中でとらえたショットをぜひお寄せください。

平成29年1月末に募集を締め切り、事務局等で審査の上、来年3月発行の会誌で採用写真をお知らせし、来年6月号から再来年の3月号までの表紙を飾ることになります。

写真の題は問いませんが、写真に人が一緒に写っている場合には、その方の了承を必ず得てください。送付先は編集事務局の黒梅までお願いします。

◆次号会誌33号発行は2017年3月10日予定。原稿の締め切りは2017年1月20日です。

☆会誌の原稿は、編集事務局（〒920-1302 金沢市末町14-60-2 黒梅明 popolo117@fork.ocn.ne.jp）、もしくは会事務所に郵送、あるいはメールで送信ください。ぜひ、愛犬の写真も添えてください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所：〒014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5 ☎0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/> encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

郵便振替口座：02280-2-106951

シバの散歩道 (31)

根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家)

シバの散歩道(31)

今年に入ってシバの様子に異変を感じるようになった。雨降りでもないのに小屋の中に置いてあるダンボール箱にうずくまっている。晴れた日の外にいるときでもぼんやりして生気がない。立っているとき後ろ足が震え、尻尾が垂れていることもある。

「おい、シバ、年とったのか」と言いながら頭を撫でたり抱いたりしても、私を見る眼に覇気がない。

八月ごろから、猛暑のせいなのか、眼やにが出るようになった。ホウ酸水で洗えばいいということなのでホウ酸を買い求め、お湯に溶かし、綿棒に浸して毎朝毎夕、散歩のとき清拭した甲斐があつてか、この秋にはだいぶ治ってきた。

シバは平成 16 年(2004 年)生まれの満 12 歳。もはや老犬である。人に譬えれば私と同じような年齢だろう。私は来春、古希を迎える。

自分の来し方を振り返って早いとか遅いとかの感慨に捉われることはないのだが、シバについては、あつという間だったなと思う。シバが生まれて最初の冬、雪やぶで跳ね回って喜ぶ姿が、つい先ほどのように私の脳裏に焼きついている。

以来、今日までの間の毎朝毎夕の散歩、そのあとの食事、これがシバにとっての最大の愉しみになっているのは言うまでもない。散歩の時刻がちかづくときクーン、クーンと鼻を鳴らして催促する。夏場は朝も夕方も六時ごろだが、日の短い冬場になると、朝は六時ごろでも夕方は三時過ぎには騒ぎ出す。食事は散歩を終えてからだ。

若いころからシバは散歩も食事も催促はしていたけれど、私の留守中は、催促の時刻になっても驚くほどおとなしくしているのだという。申し分けなさそうに低く小さな声で、もしかして忘れていたのではありませんか、といった、懇願するような調子らしい。

それが最近では、私がいなくても、早く散歩に連れて行け、早く食事を持って来い、と命令調に変わってきたというのだ。「年を重ねるにしたがい威張ってきた。態度がでかい」これが家族の感想である。毫碌したのだろうか。

私に対しては若いころから命令調であり、それゆえ私は家族から、シバの召使と言われている。それでも私は一向に構わない。お一、よしよし、と頭を撫でて可愛がっているのだ。そういう間柄なのである。

目覚めれば暗いうちから急かされて

散歩コースをシバと行く日々



生後三ヶ月で遊びに来た子供もいまは三歳

この稿を書いている十月下旬の現在、朝五時過ぎになるとゴトゴト音を立てて小屋から這い出し、庭に置かれたブナの切り株にお座りしながらクンクン鼻を鳴らしはじめる。周囲が薄明るくなると声高になり、しまいにはワンワンウーッと吠え立てる。近所迷惑を心配しながら、それでも無視するとどうなるか。数分後、ふてくされたのか、小屋に戻ったまま出てこない。

散歩は雨降りでも欠かさない。時間になると小屋から顔を出し、騒ぎ出すのだ。散歩から戻ると速やかに小屋にこもったまま食事の催促もしない。そのぶん、雨がやむと騒ぎ出すので、外で与えている食事を雨降り

の日は、最初から小屋の中に置いておく。

わが家では家族が食事しているとシバが吠え立てるので、家族より先にシバに食事を与える。そうでないとうるさくておちおち食事をしてもらえない。シバを中心に動いていると家族が愚痴をこぼす所以である。仕方がないではないか。それで不都合はないのだ。

近所迷惑になるほど騒がしく吠え立てることもないし、人には尻尾を振り振り愛想がいいから子供たちも遊びに来る。シバは全身で喜びを表している。

※ ※ ※

日々、シバと散歩しながら環境について考えさせられるのは、それが現在、好ましい状況ではないからだと思う。環境と私たちの生活とは密接に関わっているわけだから、どうしても私たちの生活のあり方やその関係性が問われなければならないはずなのに不問にされているようだ。

もしかしたら、この連載で前に引いたことがあるかもしれないが、「Think Globally, Act Locally」(地球レベルで考えて行動は足元から)という半句がある。私の場合、「行動は足元から」に、故郷やシバの散歩で遭遇するさまざまな問題が該当する。

それらの問題が依然として改善されていないのは、人びとの意識が変革されていないからだと思う。最近の事例を挙げれば、川は相変わらず汚いし、盗難と思われる自転車が放置されていたり、タヌキやジムグリの変死体が路上に転がっていたりなどしているのだが、人びとは総じて無関心である。



何日も放置されている自転車



車道に転がる、まるまる太ったタヌキの変死体



雨に打たれるジムグリの死骸

これまで再三述べてきた「犬猫問題」やゴルフの打球問題、これらの問題を改善しようとしないう行政や住民、それがまた、この地域社会の体質でもある。

さらにつけ加えれば、問題を改善しようとする私のような個人を悪者扱いにして排斥しようとする体質が根強くこの社会には浸透している。自浄作用を欠いていると言っているだろう。

先日も、これまでに何度か遭遇したことだが、「犬猫看板」の設置された橋を渡っていると、つっけんどんに言い放った年配の

男性がいた。

「どご歩いているんだ、こら」(どこを歩いているんだ、こら)

シバといっしょに歩いている私を暗に非難しているのだ。

私は怒り心頭に発し、感情を爆発させた。

「うるっせーッ、このヤローッ、なんだとッ」

昔、映画で見たようなヤクザまがいの押し殺した声で凄んだのだ。相手の男性は私の迫力に圧倒されたようで、小走りに私を振り返り振り返りしながら退散した。ここでは言論など通用しない。恫喝が有効である。

ドスを効かせた私の声に、傍らを散歩中の、近所の顔見知りは何ごとかと驚いた表情で通り過ぎた。散歩のコースと時間帯が同じでときどき出会うことがあるのだ。

「あっ、どうもこんにちは」

私は一転して平常どおりの声で挨拶した。顔見知りは事情を解せないらしく怪訝な顔をしている。私はバツが悪くなり言い訳がましく言葉を続けた。

「犬を連れているからといって公共の橋を通行するなという市役所の看板はおかしい。そんな権限があるわけでもないのに、いったいナニサマだと思っているんだ。しかもそれを楯にとって、住民が見知らぬ通行人を規制する言動をとるなどと、ふざけた話だ」

顔見知りは、うんだ、うんだ、と相槌は打っているものの無理に笑っているのか、顔が歪んでいるように見えた。関わりたくはないのだろう。

おそらく、と私は想像する。顔見知りは帰宅して、あすこのオヤジはありゃ、暴力団みたいな人だ、と噂するのはほぼ間違いないだろう。

※ ※ ※

「犬猫看板」の問題に関心ある人がいないわけではない。ここに正反対の二つの事例を紹介しよう。一杯飲み屋のカウンターで隣人に話しかけられた。初対面のその男性は私より年長で市役所 OB とのことだった。

「犬猫看板」は常々、よろしくないと思っていたそうである。その男性は犬は飼っていないという。

「犬を伴っているからといって公園に入ってはいけないとか、市道を通りしてはいけないとか、しかもこれ見よがしに看板を立てているのは見っともないし正当な理由もない。根深さんは本当によく闘っていると思います。がんばってください。陰ながら応援します」

と、概ね、こうした内容だった。

「言ってくれるだけで励みになります。ありがとう」

そう言いながら嬉しくなった私は、熱燗で二合徳利をもう一本追加注文した。

ビール一本と二合徳利を一本飲んで引き上げようと思っていたのだが、そうもいかなかったのだ。行動しなくても理解してもらえるだけでありがたいと思う。

もう一つ、これから紹介するのは、「犬猫看板」の問題を絶対に理解しないし、しようともしない度し難い、私と同年輩の猫好きな女性の事例だ。

「あなたは間違っています」

「いきなり何ですか。何が間違っているのですか」

「社会のルールや秩序を無視してはありませんか。どうしようもない奴とはあなたのことを指すのです。許しません」

電話の向こうで声を荒げ、まくし立てた。とんでもない馬鹿者がいるものだと呆れ返って訊いていた。

「ちょっと待ってください。一方的に何ですか。私の話を訊きなさい」

「訊く必要はありません。あなたは頭が変です。あなたは狂った思想の持ち主です。教養がないのです」

言いたい放題だ。私が話そうとすると、さらに声量を上げて早口になり、絶叫調になった。勝気な女である。

「あなたは外国だの、日本の他所の町の例を出すけど、それは屁理屈というものです。ここは弘前なんですよ。わかっているんですか。自分の故郷のことを悪く言う人を私

は許さない。嫌いなら出て行きなさいよ。あなたみたいな馬鹿者に奥さんがよく就いて行くもんですね。呆れてしまいます。私の夫は元校長、元教育委員会で先生方を管理する仕事をしていたんですよ。あなたとは違うんですよ」

開いた口が塞がらないとはこのことである。「弘前を出て行け」との発言に思い当たることがあった。以前、この連載でも述べたが、匿名の手紙にそのようなことが書かれてあったので、その話を持ち出すと、

「あなたみたいな人には当然でしょう」と、侮蔑の口調で言う。

「あなたのような上意下達に盲従するのは如何なものでしょう」

私は上意下達を「ジョウイカタツ」と発音したのに、その女性は独断と偏見まる出しでこう嘲笑した。

「言葉の使い方も知らないのね。『ジョウイゲダツ』ではなくて『ジョウイカタツ』と言うのです。勉強しなさい。」

ババアであっても女性とあれば怒鳴りつけるわけにもいかない。失礼とは思いつつも私は電話を切った。異なるさまざまな情報を統合するすべを持たずに対立構造をつくってしまう思考方法は改善されねばならない。

寒風にこころ乱れる秋のあめ

啼き渡りくる白鳥のむれ



空高く啼きながら飛来する白鳥の編隊

諸料金一覧

会費	・ 入会金	1,000 円
	・ 年会費	5,000 円
登録料	・ 血統書発行 一頭	1,500 円
	・ 犬舎名	2,000 円
	・ 登録再発行 一頭	1,000 円
	・ 単独犬	2,000 円

血統登録について

- ①. 仔犬が生まれた方は御一報下さい。(用紙送付)
- ②. 申し込みには登録料が必要です。
- ③. 血統登録、犬舎名登録は五文字以内で、漢字には必ずふりがなを付けること。
- ④. 両親犬のカラー写真(5×6 cm以上)を添付。
- ⑤. 二週間以内に、カラー印刷で発行しております。

おたよりコーナー

* 投稿は随時受け付けています。

秋田県 藤原庸子

こんにちは。秋田の藤原です。

秋も深まり稲刈りシーズンやってきました。くろちゃん！にとって秋は、KBI!!!! コオロギ、バッタ、イナゴ!!(ダイゴさんみたいに頭文字で表してみました)

秋は毎日 KBI に夢中のくろちゃん！ 稲をバックにした最近のくろちゃん！の写真を送ります。

くろ (2014・7・10 生、黒毛、雄)



神奈川県 高橋守一

こんにちは。モモの飼主の高橋です。

モモが赤ちゃんを産むために、7月3日、秋田の五味さんに送るために、羽田空港に行きました。まだ2才半を過ぎたばかりなのに、もう、お母さんになるなんて、大丈夫かしら？と不安でした。子供など産まなくとも良い。モモだけを大事に育てようと思いましたが、女房が、メスだから、一度はお母さんになってほしい…と言うので秋田に送りました。

8月31日に仕事から帰って来たら、二階のケージでモモは、2匹の赤ちゃんを産み落としていました。1匹は、残念ながら亡くなりましたが、1匹の赤ちゃんは順調に育ち、半月後に550gに成長。とっても可愛く毎日20gずつ増えています。五味さんは、早産の為、成長が遅れていると言います。

私が縄文柴犬を知ったのは、赤旗日曜版で、以前の犬が16才で亡くなって、6年近く経って再び、犬と散歩したくなり、五味さんからモモを譲り受けました。犬の知識も殆ど無く、ただ、以前の犬と同じく散歩できれば…という気持ちだけでした。しかし、会報で、他の会員の情報を知り、五味さんの助言も受けながら、モモと、自分の生活の中で大事に向き合うようになりました。

今はモモの赤ちゃんを女房と大切に育て、我が家の会話の中心になっています。毎日の体重を測り、記録し、とても充実した日々を送っています。(2016.9.15)

モモ (2013・10・22 生、赤毛、雌)



先月の10月、三歳になりましたモモです。美犬でしょ！犬の散歩仲間から“スマートだね、俊敏で素晴らしい運動能力ね”と。何犬ですか？よく聞かれます。

そんなモモが8月にめでたく、お母さんになりました。子犬は黒柴で家族は大変喜んでます。私達は誕生から2ヶ月間、母犬を最小でサポートしてます。子犬は離乳食を完食し、家の中を自由に飛び回り遊んでます。なかなかのオテンバ娘で気が強そうで

強情みたい。11 月中旬、里親にお渡しします。さびしい～

先方に可愛がられます様に元気で大きくな～れ

モモと仔犬(相模の桃姫:2016・8・31 生、黒毛、雌)



秋田県 金沢 聡

秋田の「蓮(レン)」こと(駒の舞姫)も、先日無事に満一歳を迎え暑い毎日が続いていますが、元気一杯です。

オテンバ娘ですが、花嫁修業の一環として躰教室なるものに参加してきました。人前では、静かで他の犬たちに吠え掛かることもなく、おしとやかな振舞いでした。歩行訓練では、一切歩かないという頑固さに飼い主側としては困り果ててしまいましたが、トレーナーの方も縄文柴犬の性格を理解しておられ、他の犬種との違いを参加者の方々に説明して下さいました。

今回は一歳の区切りとして投稿いたしました。

蓮(2015・7・31 生、赤毛、雌)



福島県 一ノ澤義雄

会員の皆様、ご無沙汰して居ります。

今まで使ってたアドレスがサイト閉鎖の為に使えなく成りましたので、新しいアドレスに変更致しました。初めての書き込みになります。テストを兼ねて?最近の近況報告を致します。

我が家のそら姫(天の白露)は毎年発情が遅れても 1、2 日でしたが、先月 7 月の 24 日前後に発情が来てましたので、今年は作出をと思ってましたが、今日現在まで発情の気配が全く有りません! これも今年の異常気象の亜熱帯気候の影響なのか? 生後半年ピッタリに発情が来て以来、その後は半年ごとに来てた発情が、今年は暑さの影響で子育てには厳しいと? 体が反応して発情が来ないのか…。

五味さんをご存知ですが、当犬舎は作出をする為に人間が住める位の環境で犬舎を作りました。断熱材を入れて、住宅地ですので騒音の対策を兼ねて遮音シートを二重に貼ってます。それでか、犬舎の近くの前の家の方も前回の作出で 4 頭の子犬が産まれても全く気付かなかった様です(笑)

子育てが出来る様に、夏場の対策として扇風機等も設置してます。友達から使わないウィンドウタイプのエアコンも頂きましたが使ってません。冬場の子育ての為に、室内温度が低く成らないように暖房設備もしてます。少しでも快適に子育てが出来る様

にと自分で建てた犬舎です。住宅地ですので一番気を使ったのが騒音ですが、そら姫は知らない方が我が家敷地内に入ると必ず吠えますが、それ以外は全く吠えない様にしてます。お陰で良い番犬になってます(笑)

気温の関係で繁殖能力が落ちるとの五味さんの ML での書き込みがありましたのでその影響が我が家のそら姫にもあるのかも知れませんが、毎年夏の室内気温は 30℃を超えたことは無かったのですが、今年は連日 32℃越えて扇風機をフル回転で回してました。35℃越えの時は 1 度有りましたので自宅に避難してました…(;^_^A) 温度計は 2 か所に設置してあります。屋根付近とそら姫の体の中心位の高さに設置してありますが、温度差は平均で 3℃です。扇風機と外気の効果だと想います。私の体調と相談して今回発情が来たら少しでも動ける間に作出を考えてましたが、今回の発情が空振りで次回に持ち越し?の気配です…。

今年のこの暑さで一番の心配は水を全く飲まないで脱水症状に成る事を心配しました! 水分は食事でしか摂取しないので水を与えて置いても全く飲まないで心配した次第です。でも、流石にこの暑さだったので 5 年目にして水を飲む様になりましたが飲み方が下手なのか? むせって咳き込んでばかりでした(笑)。でも何とか飲むことを覚えたので、一安心を致しました。

病気&怪我も全くしないで 5 年目を迎えました。色々そら姫には楽しませて頂いてます。今回は文章が長く成りましたが、次回はそら姫が覚えた人間の言葉の単語の話をと考えてます。同じ意味(止まれ→stop→待て)ですが、その様な言葉をどの位認識してるかを試してありますが、いまの所 146 個の単語を理解してありますので、そのお話をと考えてます。

史上最大級の台風が福島県近辺を通過予定で、この進路に入る地域では最大限の対策をお願いしたいと思って居ります。何事も無く通過するのを祈るしか無いですね!

そら姫 (2011.7. 24 生、白毛、雌)



1 日に何回もそら姫と散歩をしています。雨にも負けず台風にも負けず散歩をしています…^^;

そら姫の体調管理は私より優先的にしてあります(笑) 体重には一番気を付けてますね! この暑さでも食欲も落ちないで元気に河川を爆走してますので、筋肉も落ちないように遊ばしてあります。

今もベスト体重 10.5 kg 前後を維持してあります。体内時計も健在で、夜の 7 時には自宅に 1 時間ほど入れてもらえるので、決まって 5 分前には催促のお声のワンが掛かります…(;^_^A)

以前話しましたが、一年間自宅にて過ごしてたので、自宅の大きな時計を見て 8 時近くなると玄関に居座り、帰るとアピール致します。その時には必ず時計をみてから動きますので、針の位置を未だに記憶してる様です。夜の 8 時になると犬舎に戻るから、玄関を開けてとの催促だと思えますね。

先日も掛かり付けの獣医さんからも、相変わらず筋肉質ですねと云われました。お陰で、近所の 4 倍もあるお友達の雄犬もタ

ジタジです…(笑)負けん気が強いお転婆姫様です。

夜の散歩のときに数回ほどタヌキの足を銜え、数m程引きずったりして参ってます。ダニが怖いですからね！その他にもイタチ？等も多く居ますので、最後の夜の散歩は気が抜けませんね！動きが速いので一気に加速して、とうとう 50 kg 対応のリードも切ってしまいました (;^_^A)

今は予備で買った 50 kg 対応のリードを使っています。壊したリードは 5 個目です。お転婆ぶりを発揮して、狩猟本能は今でも健在です。今度はその上の 80 kg 対応？のリードかな……



本来なら今年の 7 月の終わりに発情が来るはずでしたが異常気象？の影響なのか判りませんが、二か月も遅れての発情でしたので今年は作出をと思ってましたが、発情も短期間で終わってしまいました！通常は最低 3 週間位ですが、今回は 2 週間で終わり、出血も少なくてあれ？と思う位終わってしまいましたね。

異常気象で気温も高かった影響で、この暑さでは子育ては無理と体が反応したのかは判りませんが、今回までは 1~2 日の狂いで半年ごとに発情が来てましたので、今年こそはもう一度そら姫を母親にさせたかったな、と想ってたのですが残念です！

来期に持ち越しですが、私の体調次第ですので、来期はどうなるか来年にならないと分かりませんね (;^_^A) 各県に繁殖センターがあれば楽なのでしょうが相手も居ないのでは仕方がないですね！

アクアマリンふくしまに縄文の里の展示が有りますが、そこに今年宮城県生まれの、さくらちゃんと言う名の女の子の縄文柴犬が展示されてます。当研究センターの HP も見たと話してましたが、秋田の方から購入したらしいです！

電話で当センターは育成して頂ける方に譲渡してると伝えたら、「えええ〜！」と言っていましたね…。

連絡頂けたら、当センターでも対応が出来たかも知れませんでした、とお話をしました次第です。

結構なお値段だったようです (;^_^A)

詳しくはあえて聞きませんでした、サポートも出来たのに残念でした。通常の犬とは違うので扱いに困ったようです(笑)

私は、通常の犬とは異なり、野性的な気性ですので、と伝えて参りました。

そんな訳で、いわき市には 3 頭居ることになりました♪

巡回する縄文柴犬

クマの出没情報・訪問記

秋田県 五味靖嘉

先日、これまで既に 2~3 度訪問していたが 2011 年生まれの雄犬の様子と地域環境の確認のために訪ねた。奥羽山脈の山懐の大きな川沿いに、数軒の静かな佇まいがある。2~3 年前は「この集落にクマは来ない」と聞いていた地域である。

F 氏と縄文柴犬のブナ



9 月 30 日に訪ねると、やや肥満気味だが、体型の締まったきれいな犬が、庭先に寝そべっていて、車を進入させると間髪入れず寄ってきた。私はこれまでに何度か訪ねていたもので、この犬の呼び名を知っている。

「樵 (ブナ)」と声をかけると、警戒しながらゆっくり寄ってきた。私だと分かったと、激しくジャンプし飛びかかり、狂いそうに見えるくらい喜んだ。

着いて間もなく、来訪者があった。注意深く観察すると、ブナはその来客に寄って行き、等間隔で臭いを取っていた。一定の距離が保たれているので、来客は困った様子でも無く、そのまま飼い主の F 氏と立ち話で用件を済ませ、ブナも警戒するのではなく、来たときと同じように、帰って行く時も等間隔について行き、見送った。この犬は、こうした行動には、無言で全く吠えることはしない。

犬を自由にさせるには、それなりの理由があった。もう 5、6 回になるが、自宅から 200 メートルほど離れた田んぼに収穫期の稲の実がつき始めた頃からクマが来て、その実はしごかれて食べられていた。それだけでは無く、田んぼの稲を根元から踏み倒し荒らし回っていた。元クマ猟をしていた F 氏は、一頭の雄クマであろうかと判断し、この縄文柴犬に巡回パトロールさせることにした。それから 2、3 度、ブナの吠える声を聞いた。普段は啼かないブナだから…恐らく茂みにクマが潜んでいたのだろうか。9 月 25 日から以降、周辺ではクマは観察されていない。

今年は栗も柿もドングリも、実は殆ど付かない、と狩猟を辞めた F 氏だが 80 歳を超

えても山を良く観察していた。

私にはもう時間がないので、車に乗り込むと側まで寄ってきたが、ゆっくり走らせると、村はずれまで追いかけて来た。スピードを上げると、ブナは立ち止まって、私の車のミラーから消えた。

(2016. 10. 1)

左から・庭を巡回する。

- ・半径一キロ以内の道路をパトロールする。
- ・途中まで見送る?のに付いて来た。



不思議なこと

石川県 黒梅 明

キューといつもの散歩の森を歩いていると、いろんなことに気づいてハッとします。キューは私の驚きの発見にはお構いなく、何か動くものを見つけたようです。キューを自由にさせて、私はカメラを手に森の中をゆっくり歩きます。

梅雨から真夏にかけて、生き物の活気が旺盛になります。その頃、不思議なことによく出会います。

コンクリートで囲まれた一片 3 メートルほどの水槽に、小さな浮草が青々とぎっしり広がっています。そのコンクリート壁に、発泡スチロールのような少し汚れた黄色味のある塊が見えました。なんだろうと思って近づいて触ってみると、それは泡でした。モリアオガエルの卵なのです。この森には小さな池がいくつもあり、そのあたりにはクルミの木が茂っていて、この時期はその枝葉にモリアオガエルの卵塊がたくさんぶ

ら下がっているのを見ることができます。その下は池なので、孵ったオタマジャクシは下の池に落ち、自由に動き回っています。コンクリートの壁に卵を産んでも、下に水があるので、オタマジャクシには何ら不自由はないようです。それにしても、前例にとられない発想のカエルもいるものだと、思わず微笑んでしまいます。

犀川の蛇行跡に残された窪地が池になり、崖下に残っています。その池にカメが住み着いていて、この時期になると崖を登って来て、明るい場所に産卵します。約 20 メートルの段丘崖の崩れたところからノロノロ登ってきます。登って産卵する場所を探すのです。ところが、崖下の河川敷にブルドーザーで積固めた土砂積があり、2 メートルほどの、上が平らな台形の土堤になっています。キューが登って、高い声でワンと鳴くので寄ってみると大きなニホンイシガメでした。カメは穴を掘って産卵しようとしていました。キューがカメをくわえて遊ぼうとするので、リードをつけてカメから離れました。産卵のために登るという習性を変えることなく、高い崖を登る苦労を省いて、人工の低い土堤を登って産卵場所とする知恵者のカメに、またまた微笑んでしまいました。

前夜が蒸し暑く雨の降らなかった翌日の朝のキューとの散歩では、ヘビの抜け殻によく出会います。草の少ない、石ころ混じりの平らなところに、脱皮した跡が残っています。同じ頃に行くつも見つけますが、どれも皆、棒のようにほぼ一直線に横たわっています。頭が少しくびれ、しっぽのあたりが曲がっています。ヘビが脱皮で苦労するのは、始めの頭と最後のしっぽなんだなと思ってしまいます。

梅雨が上がり始めて暑い陽射しの日が続く頃、散歩の森の崖下にある河川敷の土砂堆積場の原っぱは、土が乾いて埃っぽくなります。草地を突っ切るダンプやブルの通り道は、白い粉が吹いたようになっていきます。その幅 4 メートルほどの乾いた地面に線模様がいっぱいついています。ジグザグ

したもの、ほぼ一直線のもの、丸い円を描いたもの、らせんのようにぐるぐる巻きのもの、、、キャンバスに自由に線を描いた抽象絵画のようです。何かと思ってじっと見ると、その先にはミミズが土埃だらけでクニョクニョしています。線模様はミミズの這った後なのです。線の中に干からびて死んでしまったミミズもあります。川の方の草むらから出て、森の方の草むらに向かっていっているようなのですが、どうも一直線に動いた跡がついているものは無事にわたり切ったようで、ジグザグしているものは疲れ切って死んでいくようです。干からびてミイラのように固まったミミズを見ると、なぜか哀れを感じます。それにしても、なんでこのような一斉大移動を行うのか不思議でなりません。自然界の不思議な行動の多くは、生物の生殖行動と関係があるという話を昔聞いたような気がします。生殖能力の枯れかかった老人の私には、小さなミミズといえども、命がかかった行動に感服するばかりです。

ところで、リードを放されたキューは駆け回り、私の先をグングン行くので、私はついていくのに汗をかきます。立ち止まって息を整えていると、いつの間にか私の衣服に草の実がくっついているのに気づきます。ヌスビトハギやイノコズチです。キューの体にもくっつきませんが、イヌの毛には絡まないで、触れると直ぐに滑り落ちてしまいます。私は払っても落ちない草の実を、散歩が終わってから一つ一つつまんで落とすのに苦労しています。

救 (2011・7・7 生、黒毛、雌)



山でクマに出会ったら —ML 交信から

「縄文ひろば」のメーリングリストで交信されたクマの話をご紹介します。

こんばんは。みなさまに質問です。

皆さんはワンコちゃんを山へ連れていきますか？山では熊に出会ったことはありますか？熊に出会ったら縄文柴犬は立ち向かうのでしょうか？

私はしばらくくろちゃんを山へ連れて行っていません。その山は山と言ってもあまり人は入らないハイキングコースみたいな所で、人もいないし、気兼ねなくくろちゃん！を自由に、あまりにも楽しそうに走ったり歩いたりするから、以前はよく行っていたのですが、。

最近、その山の入り口には熊出没注意の看板がありまして、また秋田県では熊に襲われて死んでいる方もいますので、怖いというのが本音です。その山のふもとにはリンゴ畑になっており、怖さは倍増です。熊が出没しているのかはまだ聞いていませんが、カモシカがいるくらいだからいるだろうな。

山にはもちろん熊がいて当然だとは思いますが、鈴もったり、ラジオかけたりしていても最近の熊は襲ってくるみたいだから、山へ行くの躊躇しています。皆さんはどうですか？

(秋田県 藤原)

こんにちは。秋田の県北に住んでいます金沢です。

先日の県内ニュースで今年の熊の有害駆除数が発表されて、その数(217 頭)にビックリでした。春の死亡事故を受けてから、連日の目撃情報がニュース・新聞を騒がせており、この秋のブナ不作？により、ますます人里に下りてくることでしょう。

こちら側に余裕がある状況で出会った時の、野生の熊の漆黒の輝きは本当に美しいです。

よく山歩き(山菜・キノコ採り含む)する方は、鈴やラジオ等音が出る物を身に付けるようですが、私の場合は、何も付けずに静かに山中を徘徊しています。こちらが静かにしていると意外と早く、熊の気配を感じ取ることが出来ます。

今年の春に、前方 20~30m 程先で、ガサガサと音がし見てみたら、二頭の子熊が此方に走り込んで来る所でした。ホーッと声を上げると此方の存在に気が付き、別方向に逃げてゆきました。(これは余裕のある状況で出会った時)

人の感覚でも、熊の存在が若干は判るので、ワンコ達は早くから認識し、何らかの合図を送ってくれるでしょう。立ち向かうかは？ですが・・・

(秋田県 金沢)

今年は全国的にクマの出没が多いようです。金沢でもクマの目撃が相次いでいます。

私は山登りが好きで、よく山に行きますが、秋にはクマに出会うことがよくあります。でも、クマに襲われたことはありません。クマの方が人間に気づいて去っていきます。こちらが騒いだり、急激な行動をとらなければ、大丈夫な気がします。突然、クマに出会っても、クマの方が驚いた様子で走って逃げだします。でも、どんなクマがいるかもわからないので、注意が必要かもしれません。

私は仕事の都合で仲間と日程が合わないことが多いので、単独で山に入り、キノコや山ぶどうを採りに藪や林の中に入りますが、本来は一人での行動はよくないと思います。

時にはキューを連れて山に行きますが、イヌ連れのとくにクマに出会ったことはありません。カモシカやウサギにはよく出会い、キューはそれら動くものに跳びかかるように駆け出します。春山ではイノシシが最近増えています。その捕獲のための檻やワナが多く仕掛けられているので、犬のリードを放しているときには注意が必要です。

私は金沢の山際に住んでいるので、直ぐ近くにクマが出没します。毎日のキューとの散歩コースの中です。いつかクマと出会ったときに、キューがどんな反応をするのか、見てみたい気もするのですが。

(石川県 黒梅)



こんばんは。今日も忙しく疲れた一日でした。
面白いテーマですね。

クマの出会い・・・金沢さんや黒梅さんの考
えに同感です。鈴やラジオ等音が出る物を身に
付けるようですが、私の場合は、何も付けずに
静かに山中を徘徊しています。こちらが静かに
していると意外と早く、熊の気配を感じ取るこ
とが出来ます。

私は 2 度ほど、数メートルの大接近距離で出
会いました。いずれも溪流釣りで、山では雪が
消えた初夏です。川が大きく曲がる岩場、その
蔭にクマが川に入っていました。私が早く気
がついたので、口笛を鳴らして知らせたら、こ
ちらを向いて直ぐに反対側に行ってゆきまし
た。私は、冷や汗がびっしょりでしたが、とて
も冷静な対応をしたと思っています。

もう一度は、滝壺の近くで、やはり私が先に
気がついたのですが、距離は 30~40 メートル。
そのまま進むとクマの退路が無い条件なの
で少し引き下がりながら、口笛を鳴らしました。
当然、こちらに数メートル近くまで向かってき
ましたが、クマは右に方向を変え、山に登って
ゆきました。そのまま私に向かってきたら、釣
り竿と、背のリックを投げ捨てようと思ってい
ましたが、それは不要でした。運良く、私が早
く気がついたから・・・冷静な行動が出来ました。

初めて出会う、犬と同じに考えての行動とな
りますが、実際は細かな配慮が必要です。例え
ば「にらめっこ」にならない工夫も必要です。
また、自分の背中を見せないことも必要です。
これらは、自分一人だから出来る事ですが、複
数だと、事情は全く別な事になります。

イヌ連れのとときにクマに出会ったことはあ
りません。黒梅さんと同様に、犬連れではまだ
一度も経験がありません。何度も奥羽山脈に入
っておりますが、私は気がつきませんでした。

昔、良く登山をする方の話によると、犬が早
くクマを察知していたようです。状況は、水飲
み場に降りようとしたら、犬がうなり声を出し、
変だと思って様子を見たら、大きなクマがいた。
谷底なので、静かに引き下がった、と申してお
りました。犬連れが安心だった、と聞いており
ます。

(秋田県 五味)



未だカミさんが歩ける頃、大雪山系の白雲岳
登山をやって、避難小屋裏の雪渓に親子熊を見
て、野生の熊を此の時は初めての経験だったけ
れど、動物園とは違う緊張感を覚えたのですが、
それから数年後の事、今度は石狩川の源流の沢
登りとトムラウシに登り、其の帰りに、以前に
見た白雲岳の雪渓わきを高原沼へと帰路を取
って、沼の辺で熊に遭遇！距離は6~7メート
ル位か。沼の淵を歩いている人かと思って声を
掛けようと、、、立ち上がった熊にビックリ！
熊も驚いたのか、立ち上がると向きを変えて沼
の中を、まるでモーターボートの様に走って向
こう岸へ、、、でも其の岸辺の先は私の歩いて
行く登山路だ。それからは熊に会わないかと耳
を澄まして、、、そんな事があったので、ワン
をと思ったのですが、そのワン=竜太は山でフ
リーにすると困った事に、獣道を追って行き
中々帰ってこないのが難点で、長い時は1時間
も、、、何とか訓練すればと思いながらも、果
たせずに来て、、、帰巢本能を知ったのも、あ
るけど、、、だからといって何時間も待つのは
厳しい、、、何とか、、、と思ううちに、、、
此方も体力的にもう無理となってしまった。

(北海道 橋)

熊に出会ったことは、まだない。でも、先日
の宮城研究所を訪れた時、金沢さんがおっしゃ
っていたような漆黒の美しい毛皮を背負わせ
てもらいました。もののけ姫の映画に登場でき
そうな感じで、神妙な気分になりました。人間
の手に係ってしまった手首、鋭い爪…パーツを
観察すればそれは怖いと思ってしまいました。

普段の太郎との山歩きは、リードを外すので
ハイキングコースを行かないで、人が入って来

ないようなところを選んでいきます。もっぱら尾根筋めがけて急な斜面を登って下り、谷筋を帰ってくる。以前、メーリングで教えてもらったわたりがそこなのか、太郎と3回の猪との遭遇は同じ谷筋で緊張感がある場所です。初めて猪と遭遇した太郎が果敢に追いかけては食い下がる場面をリアルにみてからは、山歩きはなにが出てくるかわからない怖さにぞくぞくしました。しばらくは、同じところに行けなかったほどです。しかし、見たことのない太郎の動きや様子に感動しました。私にはわからない気配を太郎は瞬時に察知して、まっすぐに駆け上がっていきまいた。怯えたり、引き下がったりしない。眼光鋭い太郎は野性そのものであったように思います。生き物の気配を敏感に捉える太郎と一緒にいるので、私は安心できます。太郎はいつも少し離れたところを進んでは止まり、アンテナを張っているかのよう。動かないで凝視して体を固まらせている時は私もじっとして、太郎の緊張が緩むとほっとするのです。ひとりで行くのは良くないと家族にいわれることもありますが、また歩き方が違うような気がします。我が家の近くでは熊出没のニュースはありませんが、2時間程、高野方面に行けば熊注意の看板はよく見かけます。実際、熊に出会ったらどうなるか自信がないけど、お互いがいい距離感で静かに通り過ぎたら、自然の中の美しい出会いになるのだろうか…金沢さんや黒梅さん、五味さんが羨ましいです。

(和歌山県 土山)



みなさま、こんにちは。

山と熊について、皆さま1人ひとり違った体験や感じ方があり、読んでいて楽しかったです。ありがとうございます。

話は変わりますが、アメリカ大統領選挙で話題のトランプ氏の髪型はインパクトあります

よね。うちのくろちゃんもトランプ氏みたいにしてみました。
(秋田県 藤原)



お帰り！太郎

和歌山県 土山 仁美

交配の為に地元を離れていた太郎が帰って来ました。4カ月ぶり、元気に戻ってきて本当にうれしい。毎日の散歩が今まで以上に楽しくて、ついつい遠周りをしてしまうほどです。町中を歩くとき、自転車や知らない方とすれ違うので、リードをかなり意識していないと吠えかかる心配もありましたが、不思議とそれがなくなっています。相性の悪かった柴のオス達と出会っても、静かに寄って行って鼻先を当ててクンクンしたり、自分のお尻を向けたり和やかにしているので、相手の飼い主さんが「あれー、どうしたん！仲良くなってる！」とよく言ってくれます。それを聞く度に、太郎の成長をうれしいと思う親バカな私です。山に入ってリードを外しても、今までならすぐ走り出して行ったのですが、よほど気になるものがない限り離れないのです。なぜなのかわからないけど、私の前後にいてついてくるのです。全体的におとなしくなって飼いやすくなった太郎です。体格的には、2キロスリムになり、太郎の動きが軽快になりました。以前はもっと重量感があってドドーっ

という感じで走っていましたが、今は、ササアーって走り寄っていく感じです。2、3日前、狭い道で突っ込んできた車をかわそうと慌てて道の端に寄ったときの事、80センチの高さで 20 センチ幅の段に太郎が飛び乗ったのには驚きました。大げさだけどなんか猫みたいだと一瞬思ったぐらいです。考えたけど、1本の足にかかる負荷が 500g 軽くなったので、動きが楽になって、今までと違うのでは、と思います。真上から太郎の歩きを観察していても、頭が通り抜ける幅で全身スルーできる体型に変わっていることにも気が付きました。これなら狭い藪のようなところでもスムーズに動けるはずで、余分な贅肉が取れて引き締まったので、ここから山を走らせて鍛え、筋肉をつければ良いと五味さんからご指導を頂きました。それにしても 4 カ月もの長い間、研究所で飼育管理までして頂き、本当にお世話になりました。わがままで怒りん坊の太郎が、すっかり五味さんに懐いていたのにはびっくりしました。どうしたらそうなるのか〜と今更ながら不思議に思っています。

そして、念願でった太郎のルーツの犬達と会えた喜びは一生忘れられない、、すっかり目に焼き付きました。日々の飼育のご苦勞はいかばかりか、秋田、宮城両研究所の活動に心から感謝するばかりです。いつかまた行ってみたいと思っています。新たに仔犬の誕生、成長を見守る楽しみができて、こんな嬉しいことはありません。

(2016.10.28)

太郎 (2013・9・12 生、黒毛、雄)



五味さんに質問があります。

どうして太郎は、おとなしくなっているのでしょうか？



五味さんの答：土山さんと会員の皆さんへ

太郎の四ヶ月間は、見慣れない犬たちとの共同暮らしになって、想像以上に多くを学習したのではないかと考えます。以下、その要点を書きます。

太郎のその学習は、何と言っても順番です。食餌・散歩・スキンシップなど、どれをとっても今までの一番から、三番目四番目になっていました。いくら要求しても、他の先輩らしき犬を目の当たりにする訳ですから、一番を譲らざるを得ません。こうした環境・条件では、学習能力をより発揮すると考え、躡ける必要はありません。

縄文柴犬は「環境適応能力」に優れているからです。栗農園ではクマを寄せ付けないのも、この能力が含まれていると思います。

次に、言葉として「栄養過多(肥満)」状態の犬の欠点としては、「キレ」易いとか、わがままな行動として見る必要があります。これも、追求すると大変に複雑な話ですが、栄養状態のことはこれまでに会誌(例：28号)でも触れましたので参考にしてください。因みに、6~7割の縄文柴犬は、この肥満に相当しますが、苦しいのは多くの会員がこの問題に気がついていない、深刻な側面がある点です。(体重などの数値は、特に重要な意味があります。)

全体的に体調が良ければ、感覚鋭敏で動きは俊敏、忍耐強く持久力があり、所謂、扱い易い犬になります。今の太郎の状態がそれに近いと思います。こうなると、殆どの場合「躡ける」という事はいらなくなります。自然体で暮らせば、多くの場合は、縄文柴犬

の方が、飼い主やその場の状況を観察し、判断するようになりますから・・・

(2016.10. 29)

川縁の公園で

日曜の午後のひととき

岩手県 佐々木俊幸

今年で2歳になる我家のタマくん(栗駒の紅中)は、この頃やんちゃ加減が落ち着いてきました。

以前までは、えさを与える際や、リードにつないで散歩に連れて行く際に、少しでも隙を見せると犬舎出口をすり抜けて外に飛び出し、その後連れ戻すまでに大変な思いをさせられたのが、この頃では、そんな落ち着きの様子が見られなくなりました。

犬舎を飛び出すこともなく、こちらが働きかける様子をよく観察し、食事の時間とわかればえさが与えられるまで犬舎内に待機、散歩の時間となれば、喜びはしゃぎながら、「早くリードをつないで」とこちらに駆け寄ってくるのです。

犬舎から抜け出しをしても、我家が一番ということがわかってきたのかな？

大げさな話ですが、これも飼い主との信頼関係が築かれてきた証？とワンの成長に感心している次第です。

晴れた日曜の午後には、ちょっとの間、リードを外して近くの川縁の公園で過ごしておりました。

タマ(2014・6・30生、赤毛、雄)



竜太と暮らして(その2)

北海道 橋 宏

カヌー犬にと思い、何とか水嫌いを無くすことができないものかと、さまざま試みるのだが、少し馴れたかなと思っても、以前に経験したことは忘れてはいないようで、雨上がりの散歩で、泥に汚れた体を洗い流そうと、風呂場でシャワーをかけようとすると、水音で脱出しようとする。何とか洗い流すことはできたが、水辺に近寄ることはしない。川の浅瀬を渡ることも、先に誰かが渡る様子を見て、こわごわと瀬に入っていく。

そんな用心深さがあるのに、山道に行く時にフリーでは、どこへ行ったのかわからないくらいに一目散に走って行ってしまう。姿が見えなくなるほどの興味がある何かがあるのか、とにかく呼んでも姿を見せない時は、まず一時間くらいは彼の帰巢本能に期待して待つ！そして時々呼んだり、呼子やらで合図するなど、...、もう置き去りに？と思う頃に、何ともみずぼらしい姿で現れるではないか。

それ以後は姿が見えなくなるような藪の多い所ではフリーにしないことにした。行方不明状態が2回ほどあって、姿を現す時の姿は本当にしょぼくれている。だから叱ることもできない哀れさで、つい甘やかしてしまふ。

そういう状況になるかもしれない場所での、フリーな状態にすることがいけないのだろう。

そんな反省点があるのだが、首輪を止めてハーネスに変えたのも、外の小屋暮らしを止めたのも、いろいろと訳ありだ。

首輪をあまり締めるのはと、首に喰い込まない程度でつけていたのだが、キタキツネが小屋近くにやって来たらしく、それを追うために首輪を、なんと後ずさりして抜け出して、追って行ったのだ。この時は、すぐ裏手の鉄道線路を越えて、線路端の鉄道林の中を走って、住宅地周辺をうろついて

いたが、呼ぶ声と笛で気づいたらしく姿を見せた。以後首輪を止めてハーネスに変えたのだが、それでも何とか脱出を考えたらしく、しきりと後ずさりしたり、鎖を喰い千切ろうとするが、あきらめたようだ。

竜太 (2000・9・4 生、赤毛、雄)

初秋の頃 コスモス・菊の花、ホオズキが色づいて



小屋住まいは、出入が自由だから嫌がらないが、ケージの中には入らない。何とか入らないかと工夫してみるけれど、無理なようだ。入口の扉が開いていると入るが、そこで横になるということはない。フェリーのペットルームのケージに入れるのに汗だくになり、1 時間以上も格闘してやっと入れた。そんなに嫌ならと、フェリーに乗船前に、ケージに入れて乗ってみた。着船して車の所に行ったら、なんと助手席の窓に「竜太」の顔が。プラスチックのケージの扉を噛み破って出たのだ。

それ以後は、車の中にそのままの旅となった。フェリーでの旅は乗船から目的地までの 8~12 時間だが、その間の排尿を考えると、若い時はいいが、8 歳過ぎからは長時間の船旅は無理では、と思えるようになった。

小樽から秋田へは 10 時間以上の船旅。苫小牧から八戸へは少し短時間ということで、秋田への船旅は竜太が 10 歳ころから八戸への旅となった。そして帰路は青森から函館へと、短い船旅をする。今では長時間の船旅にはストレス解消などを考えたのか、ペットとの船旅とか、遊び場設置などが作られたが、まだその利用は考えていない。

竜太とは理事会や交流会出席のために、

大曲を通過することが何回かあったが、その都度鼻先を窓側に向けて甘えた声を出すのだ。懐かしい臭いを感じてなのか、だから五味さんを尋ねないわけにはいかない。嗅覚の発達とその記憶力とに驚く。

子犬をと思い雌犬の“未来”を飼い、会員をとの希いは果たせなかったが、この 15 年の様々な竜太との暮らしで、気づかせてくれた縄文柴犬の魅力は、私の暮らしの中で大変な生きがいを与えてくれたことに感謝している。

もう疲れたか!



秋、まだ元気だった頃 ここが休む定位置
未来 (2013・11・12 生、白毛、雌) とともに



リュウが変わったのは?

群馬県 糸原明美

リュウはもうすぐ 8 歳になります。人間で言うと 45~50 歳くらいでしょうか。年齢と共に体力が落ち性格も丸くなっていくのは、人も犬も同じなのかと、リュウを見て思うこの頃です。

思い返すと若年時のリュウは本当にエネ

ルギッシュな犬でした。散歩中、他の犬を見つけると背中を逆立てて向かっていこうとするし、通行人への噛み付きの心配があり、進行方向の確認をし、引き綱は二重巻きでしっかり持ち、なるべく人に接近しないように歩いたものでした。(実際事故もありましたが(泣))

リュウとの散歩は楽しくもありましたが、気を張り続け、帰ってくるとホッとするというか精神的にドッと疲れのどる何とも妙な散歩でした。

リュウがこうも激しい性格になってしまった原因を私なりに考えると、生後一ヶ月程で私のところへ来たので、親から社会性を学んでいなかったこと。職場関係上で幼犬期に警察犬訓練所に通ったことで必要以上の厳しい躾をしてしまったこと。ウィークデーは仕事で 12 時間は留守、子供も家から出ていて一人生活のため、人にも犬にも触れ合う時間が極端に少なかったこと。が思い浮かびます。

そこで五味さんにお伺いしたいのですが、これらは性格や行動形成に大きく影響があったのでしょうか？それとも他の要因も考えられますか？

リュウ(2008・11・19 生、白毛、雄)



リュウが 3 歳の頃、秋田の五味さんに預けたことがありましたが、五味さんなら犬を見て生い立ちや育て方、環境がすぐにわかってしまうでしょうから、リュウを見てやれやれと思われたことでしょう(笑)

ところがそんなリュウが 2 年前から変わりました。

きっかけは、趣味のテニスの再開でした。

リュウとの散歩中、家のすぐそばの廃校になった私大の西門が開いていたので入っていくと、テニスコート。その向こうは草ぼうぼうの広いキャンパスが広がっていて、「もったいないなあ、ここでリュウを思いっきり走らせてやれたらなあ・・・」と思いながらも、人がいてはリュウを放せないの一回りして帰ってきました。その後も気になり、毎週土日は開門時に散歩に行くようになると、リュウもテニス愛好家に顔なじみとなり、私もずっと気になっていたテニスを再開することになりました。テニスにはリュウを連れて行き、コート脇に繋いでおくのですが、クラブ員の中に馬術歴 50 年の馬大好き人がいて、近づくと吠えるリュウをいとも簡単に落ち着かせ、さっさと散歩に連れ出すのです。動物に対する心得は犬も馬も共通するところがあるんだと実感した場面でした。こうして馬好きクラブ員から始まり、徐々に犬好きクラブ員が交代で散歩してくれるようになり数ヶ月、気付いてみたら散歩道を歩く人に無反応！環境次第でこうも変わるものかと驚きの体験をしました。

こうして人に慣れたはいいが、縄文柴犬の特質である野性は失われてはいないかと又々心配になります。野性味は失いたくないが、住宅密集地で飼うには野生が強ければ飼いにくくなるという、相反する現状が、いつも頭の中で交錯するのです。

結局ここで飼う以上、この社会に順応し、且つ縄文柴犬の特質を保持するように心がけながら飼うしかないのかなと結論を出し、自分を納得させています。

そして、ここ 2~3 か月前からリュウの行動で大きく変わったことがあるので、追記します。

前は、リュウを放すのは、相当の山奥の絶対人の来ない所まで行かなければなりませんでした。人慣れしてからは利根川岸の崖下の藪で放しています。ところが前はこの河原で放すと、石垣を登ったり、見えなくなるほど遠くまで探索に行っていたリュウが、2~3 ヶ月前から、急に私の周り 15m 位

から遠くへ行かないのです。知らない山に連れて行くと 10m より離れないのです。

五味さん教えてください。これは年齢のせいでしょうか？何かのショックで臆病になったのでしょうか？



リュウには次々と悩まされ考えさせられながらも、もう少しで 8 年のお付き合い。最近ではリュウを放したとき呼び寄せる以外、私からほとんど声を発しません。私の動きを読み取れる年齢になったようです。

決して上手な飼い主ではないけれど、私を主人と慕ってくれるリュウは本当に良きパートナーです。

五味さんの答：栗原さんへ

ここでいう性格や行動形成の変化と影響、という問題は私にはとても難しく、一概に述べられない点を冒頭にお断りします。栗原さんの場合、幼犬時期の接し方について相談を受けた記憶がありますので、そのことを念頭に、ごく一面的ですが触れてみます。

リュウがまだ幼犬から若犬の成長期に、乱暴で、飼い主も触れられない。そこで栗原さんは、訓練所に預けたりしていました。その出来事は、その後の行動にも非常に大きく関わったのだらうと考えます。オトナになったリュウを預かって接した事もあり、それらを考えると、触れ合う時間が多いか少ないかが問題では無いと考えます。(注記参照) 大事なことは、犬との散歩なり触れ合う時間が、飼い主として「心から楽しくしていた」か、或いは「信頼関係」がどうか？ということになると思います。厳しい表現ですが、飼い主の気分で、訳もなく褒めたかと

思うと、「駄目」とか「コラ」と感情をぶつけるような事が繰り返しあった場合、犬の側からすると「訳の分からない接し方」になり、判断に困り、不安定な行動になるのではないのでしょうか。この問題は、直接飼い主の「投影」だとも考えても、的外れではないのでは？と私には思えます。

今回の内容によると、その後リュウが飼い主として「褒められる犬」になったとの主旨で書かれています。オトナになったリュウが知らない私や、宮城の研究所に預けられたときの学習は、その後には生かされていた筈です。

テニス場で、飼い主が楽しんでいる環境も重要だろうと思われれます。また動物に詳しい方のことも書かれていますので、それも関係があるのでしょうか。しかし、リュウの行動の変化については、テニス場の事や加齢だけで大幅に変化したとは通常考えられないのです。私はもうここ何年か、リュウの観察から離れておりますので、これ以上の事は述べられません。

注記：春から秋までの数ヶ月間、クマの追っ払いをして栗農園を守る縄文柴犬の場合、飼い主との触れ合いは、一般的に考えると極端に少ない時間です。しかし、見事に番犬の役目を遂行し、飼い主にはとても良くなついています。犬は日常が山の中ですから、知らない人と知ってる人、或いは外敵(獣類)を明確に区別し、全身で対峙しています。この点は、所謂、町中の犬との大きな環境・条件の違いになり、これは、躰をしたからではありません。

冒頭の「性格と行動形成の変化」という問題には、多くの事柄が含まれますが、ここでは飼い主を含めた環境・条件に左右されるという意味で一端を述べてみました。

(2016.11.10)

クラウドファンディングへのご協力に心より感謝申し上げます。 (JSRC事務局)

目標には達しませんでした。多くの方に縄文柴犬研究センターの活動を知ってもらえる機会となりました。これからも繁殖と里親の拡大をめざす募金活動を続けます。ありがとうございました。